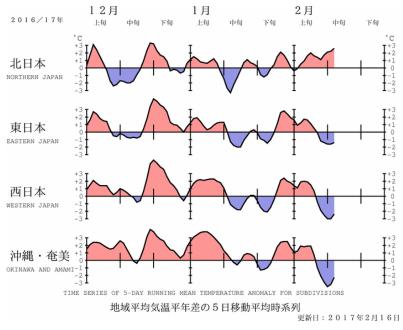
### 2017年1~2月の2度のアラスカブロッキング と 寒気流出

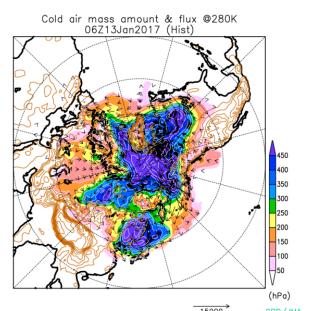
多くの図は、気象庁気候情報課のイントラページからのコピーです。また、解析には気象庁気候情報課のインタラクティブ気候解析ツール(iTacs)を利用しました。ここに記して感謝します。

前田修平(気象研気候)

#### 2017年1月中旬と2月10日ごろの寒波

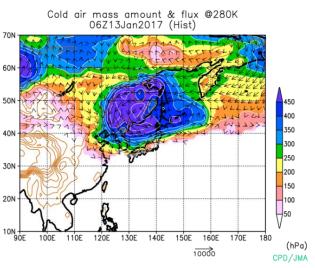


#### 寒気質量&フラックス

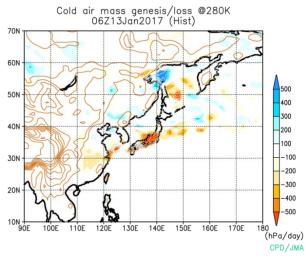


#### 1月13日06Zの寒気質量など

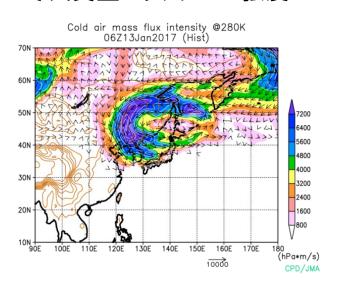
#### 寒気質量&フラックス



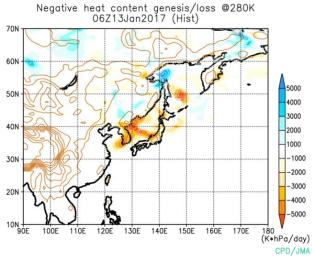
#### 寒気の生成&消滅



#### 寒気質量フラックス&強度



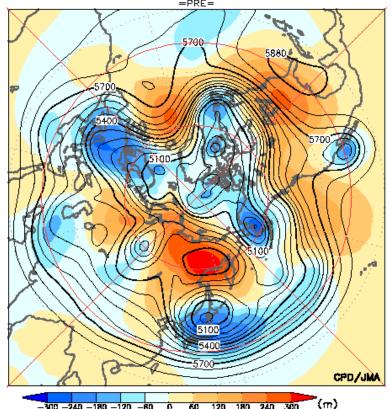
#### 寒気容量の生成&消滅



### 1.1月中旬の寒波とブロッキング

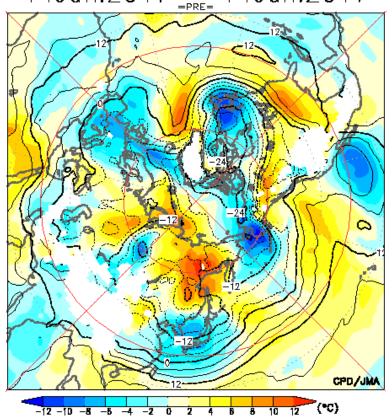
1/14の日平均場

500hPa高度(線)と平年偏差(色) 14Jan.2017 \_\_\_ 14Jan.2017



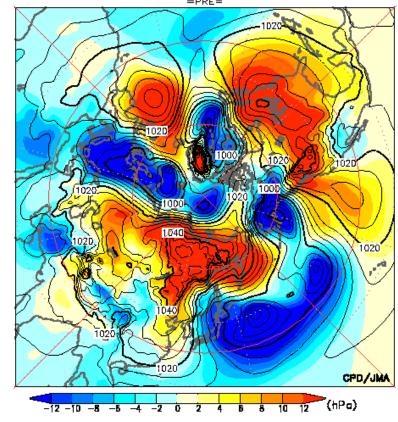
#### 850hPa気温と平年偏差

14 Jan.2017 = 14 Jan.2017

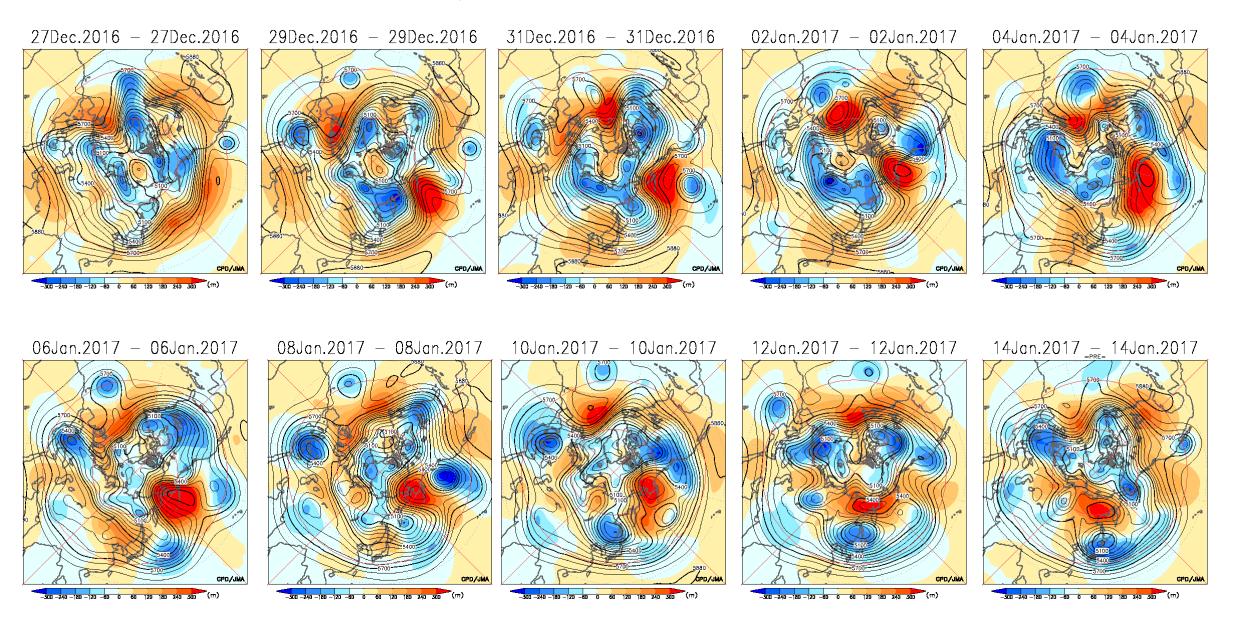


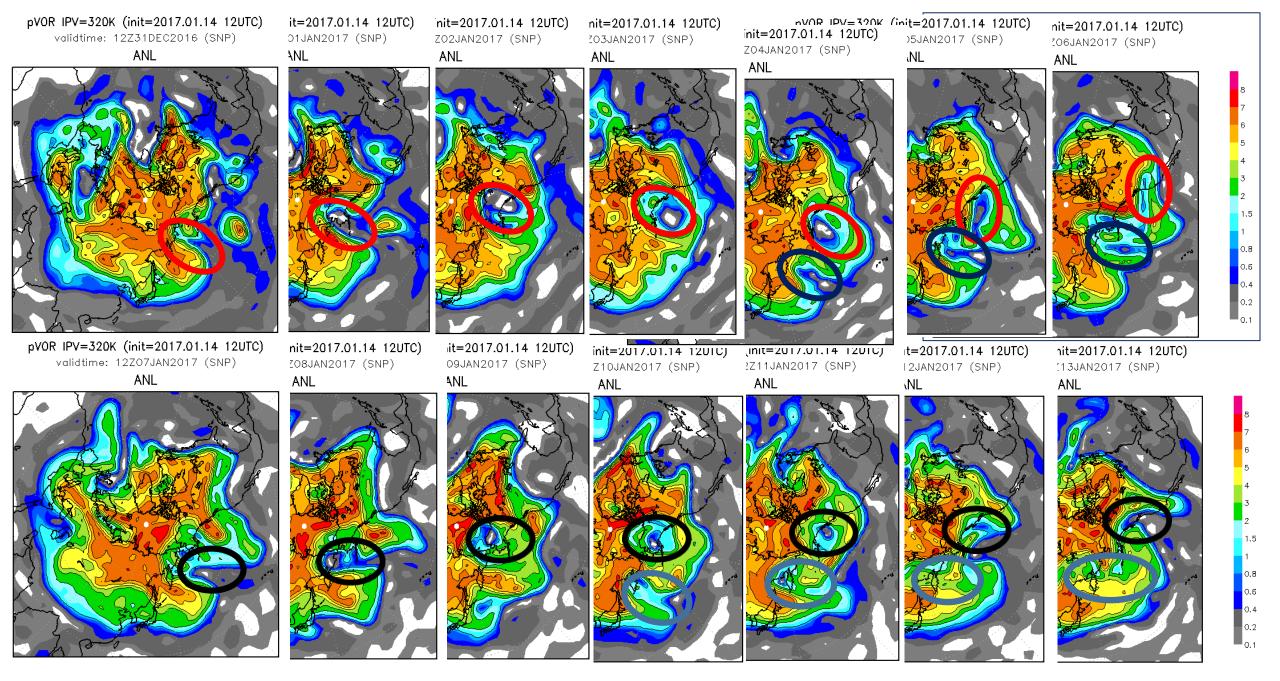
#### 海面気圧と平年偏差

14 Jan.2017 = 14 Jan.2017



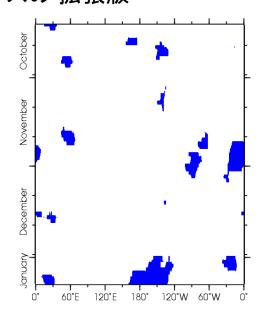
#### 日平均500hPa高度(線)と平年偏差(色)、12/27-1/14で1日おき、



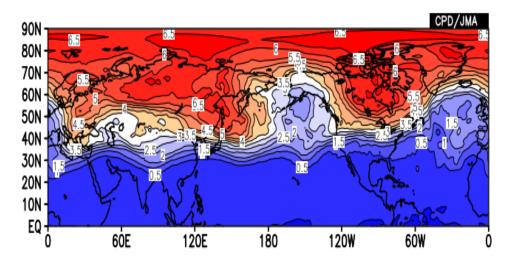


温位320KのPV、12Z31DEC - 12Z13JAN

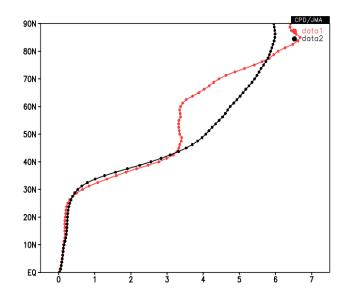
#### Tibaldi and Molteni(1990) のブロッキングインデック スの 拡張版



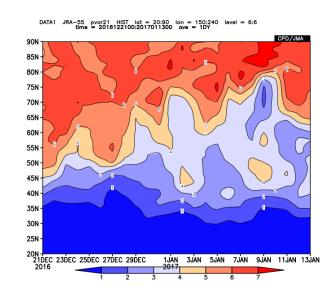
#### 温位320KのPV、1/1-13の平均



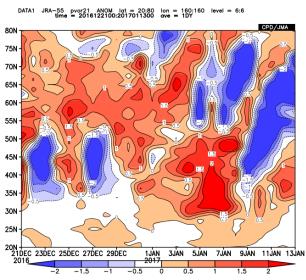
温位320KのPVの緯度分布。150E-240Eで平均、1/1-13で平均。黒は平年、赤が2017年



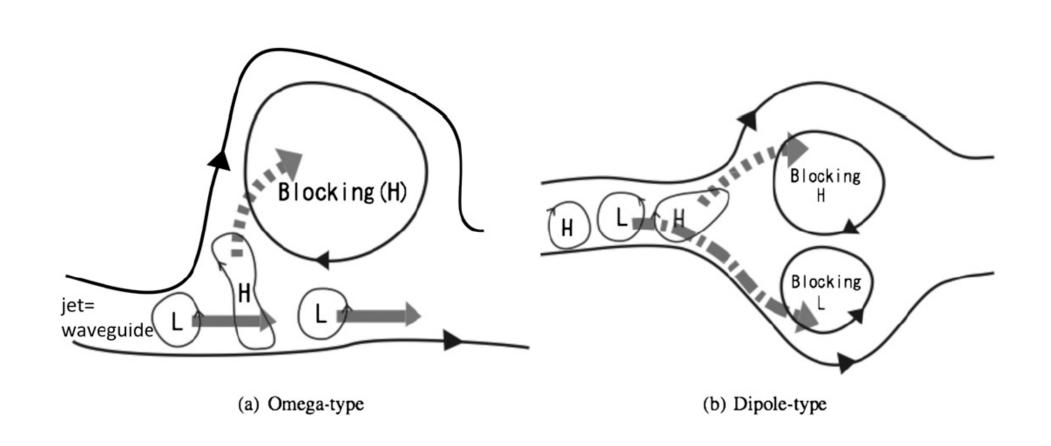
#### 温位320KのPVの時間(12/21-1/13)緯度 断面図、150E-240Eで平均



## 温位320KのPV偏差の時間(12/21-1/13)緯度断面図、160Eの値



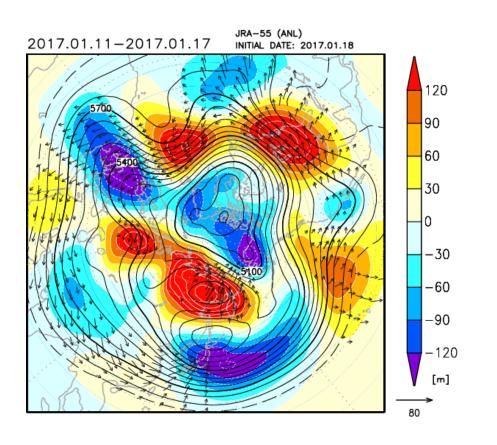
# 渦渦相互作用によるブロッキングの維持 (Yamazaki and Itoh 2013 の Fig.2より)

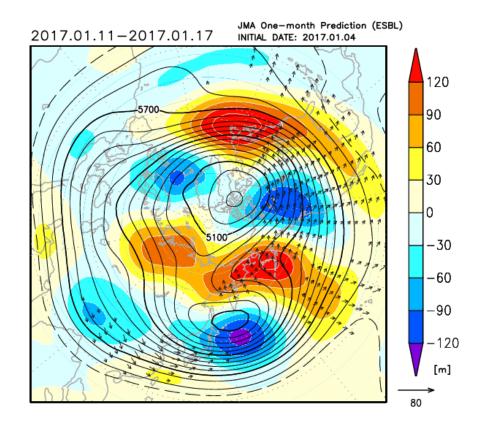


### 予測:1月4日初期値、1/11-17の7日平均

500hPa高度と平年偏差 実況

気象庁1か月EPSの予測(アンサンブル平均値)、1月4日初期値

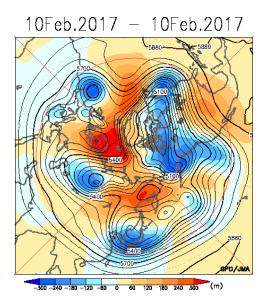


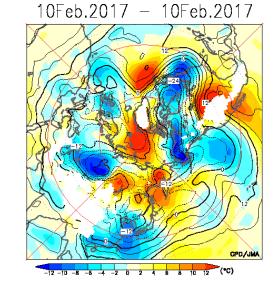


### 2月10日頃の寒波とブロッキング

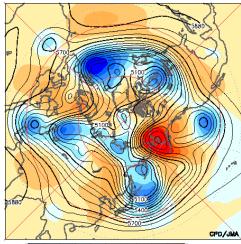
2/10の日平均場 500hPa高度(線)と平年偏差(色)

850hPa気温と平年偏差





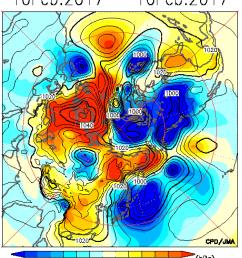
02Feb.2017 - 02Feb.2017



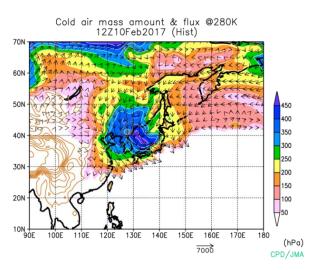
2/2の日平均場

#### 海面気圧と平年偏差

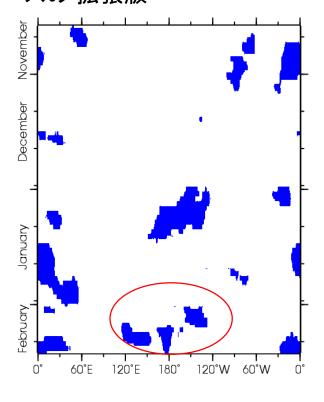
10Feb.2017 - 10Feb.2017



寒気質量とフラックス 2/10 122

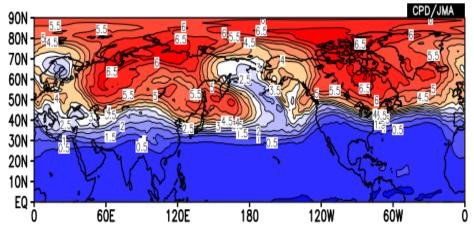


#### Tibaldi and Molteni(1990) のブロッキングインデック スの 拡張版

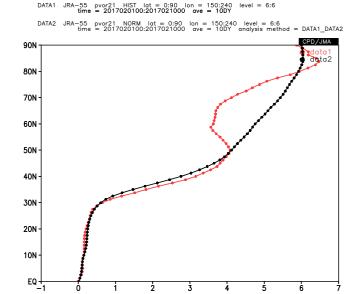


#### 温位320KのPV、2/1-10の平均

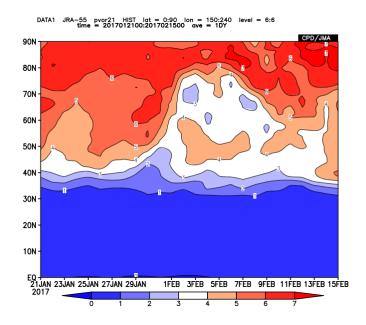
DATA1 JRA-55 pvor21 HIST lat = 0:90 lon = 0:360 level = 6:6 time = 2017020100:2017021000 ave = 10DY

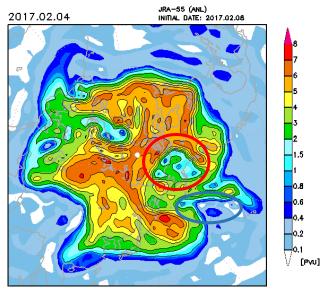


温位320KのPVの緯度分布。150E-240Eで平均、2/1-10で平均。黒は平年、赤が2017年



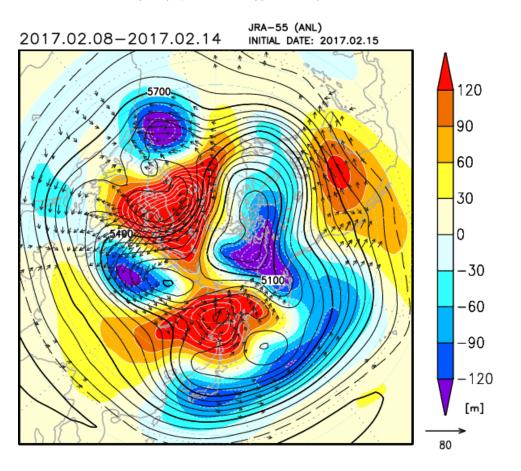
#### 温位320KのPVの時間(1/21-2/15) 緯度断面図、150E-240Eで平均



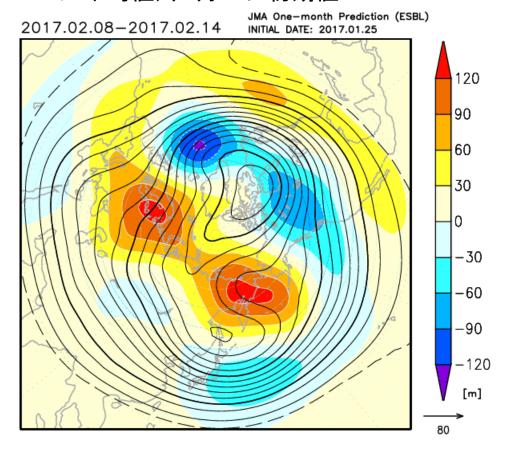


### 予測:1月25日初期値、2/8-14の7日平均

#### 500hPa高度と平年偏差 実況

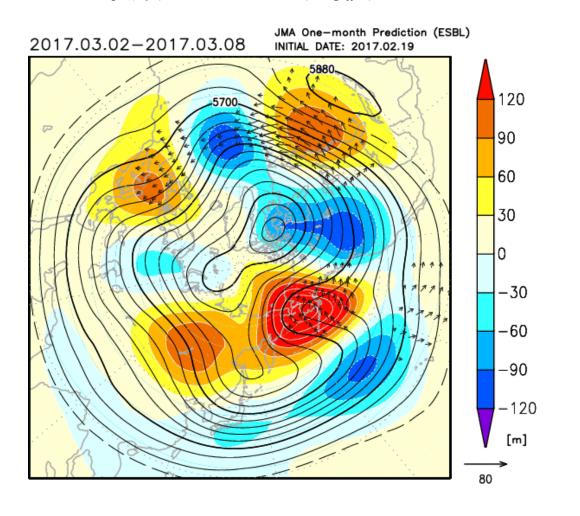


### 気象庁1か月EPSの予測(アンサンブル平均値)、1月25日初期値



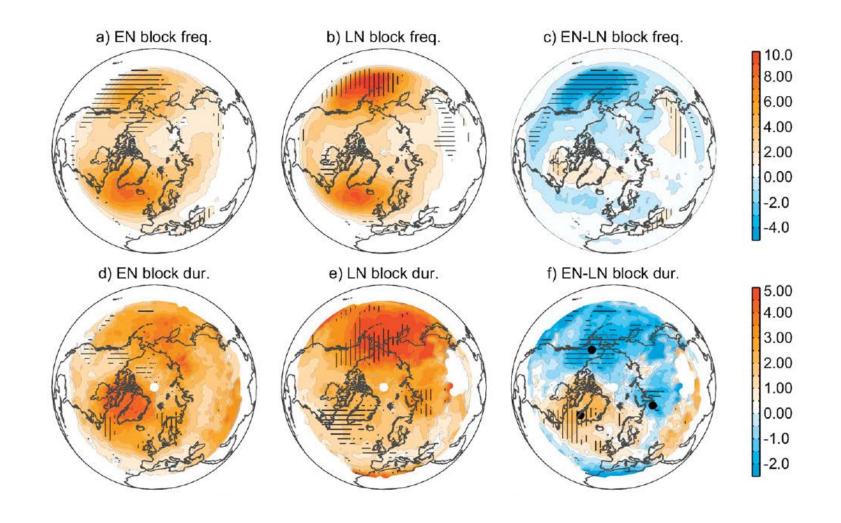
# 3. 今冬、三つ目のアラスカブロッキング(予測)

2/19初期値、3/2-3/8の7日平均場の予測(アンサンブル平均値)



今冬は、アラスカブロッキングが起きやすいのか?

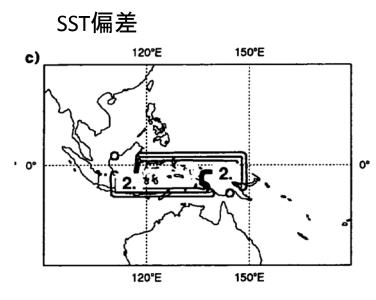
## アラスカブロッキングの頻度とENSO



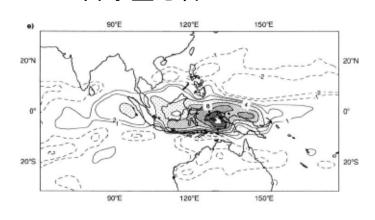
冬季、ラニーニャ 年の方がエル ニーニョ年より、 北太平洋~アラ スカブロッキング の頻度が多く、 持続期間が長い

Barriopedro and Calvo, 2014

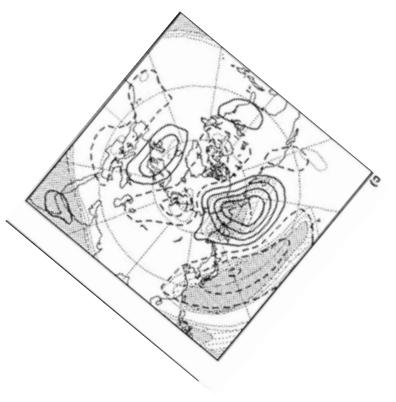
# インドネシアのSST、降水とブロッキング頻度 (AGCM実験)



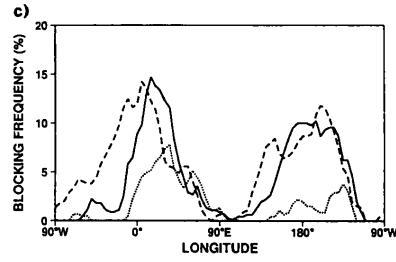
降水量応答



500hPa高度応答

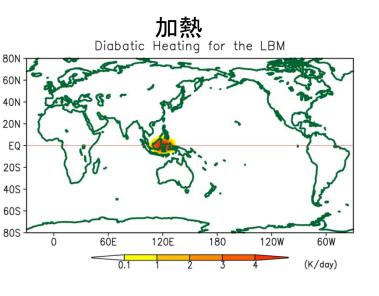


ブロッキングの頻度の変化

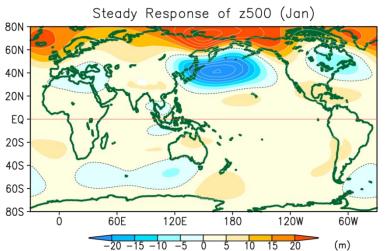


Ferranti et al. 1994

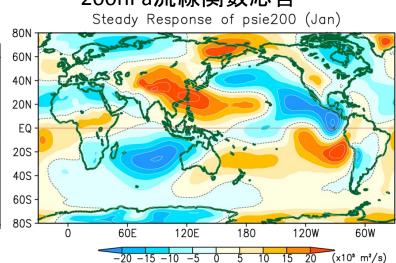
## LBM実験、1月基本場、インドネシアでの加熱



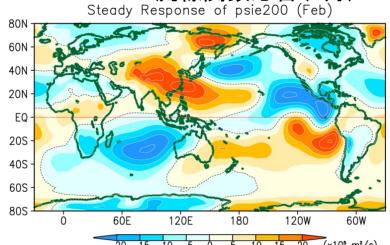
#### 500hPa高度応答



#### 200hPa流線関数応答

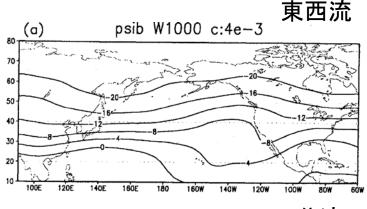


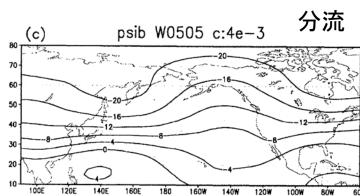
#### 200hPa流線関数応答(2月)



### 基本場(東西流型と分流型)による特異モードの違い

#### 基本場





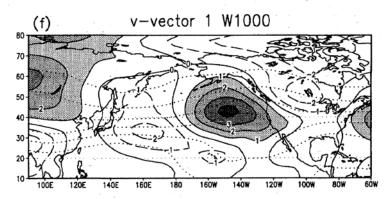
基本場の周りに線形化した 順圧モデル

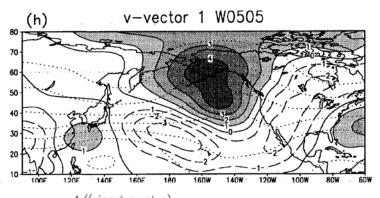
$$\frac{\partial \boldsymbol{\varPsi}}{\partial t} + A\boldsymbol{\varPsi} = \boldsymbol{f},$$

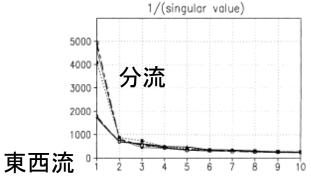
その特異値分解

$$\mathbf{\Psi} = \sum_{i=1}^{n} \mathbf{\Psi}_i = \sum_{i=1}^{n} \frac{\langle \mathbf{u}_i, \mathbf{f} \rangle}{\sigma_i} \mathbf{v}_i$$

#### 第1特異モード







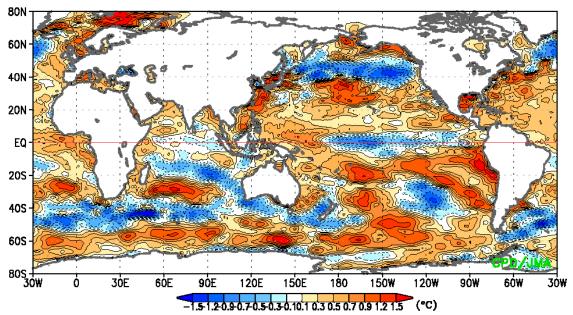
特異値

Maeda et al. 2000

## 今冬(2016/12/1-2017/2/18)の平均場

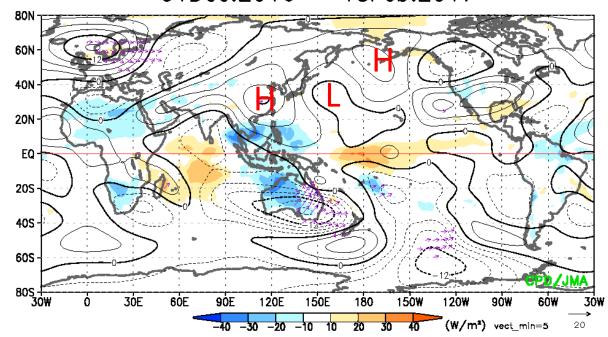
SST偏差





200hPa流線関数偏差とOLR偏差(色)

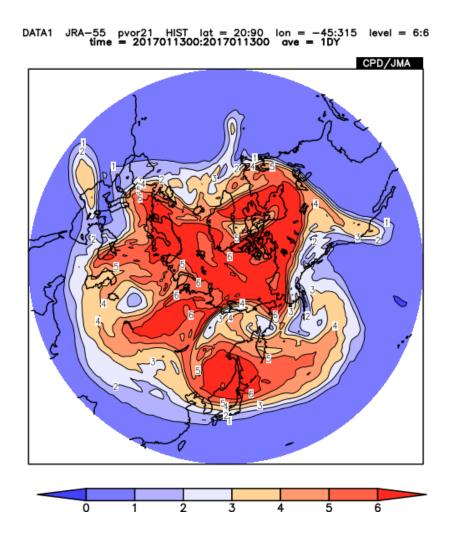
01Dec.2016 - 18Feb.2017

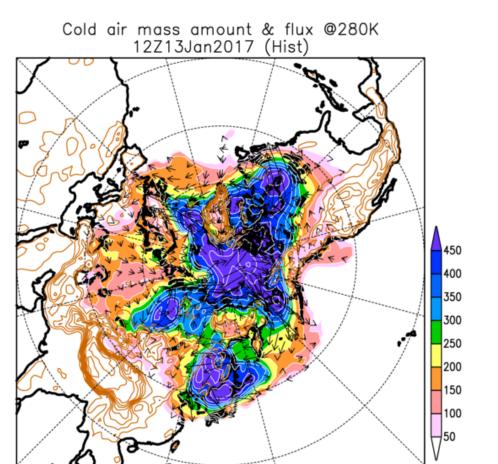


### 5. まとめ

- 今冬は、アラスカでブロッキングHが2度発生、東シベリアに西進し、 その影響で、日本付近にはカットオフLが出来、寒気に襲われた。
- ブロッキングの維持・西進には、ブロッキングによって経路を阻まれた総観規模擾乱が貢献した(Yamazaki and Ito 2009と整合的)。
- ●3月上旬に同様なこと(?)が予測されている。
- 今冬のSSTや熱帯対流活動は、アラスカブロッキングの頻度が多いときの特徴と類似している(過去の解析、GCM実験の結果と整合的)。

## 等温位面の渦位と寒気質量(断熱保存量)





(hPa)
CPD/JMA